

◆61事業所に送付したうち50事業所から回答あり(回収率82%)

(内訳①)	回答あり	事業所数	回収率
児童発達支援事業所	20	24	83%
放課後等デイサービス事業所	47	58	81%
(再掲)主たる対象: 重心児	5	7	71%

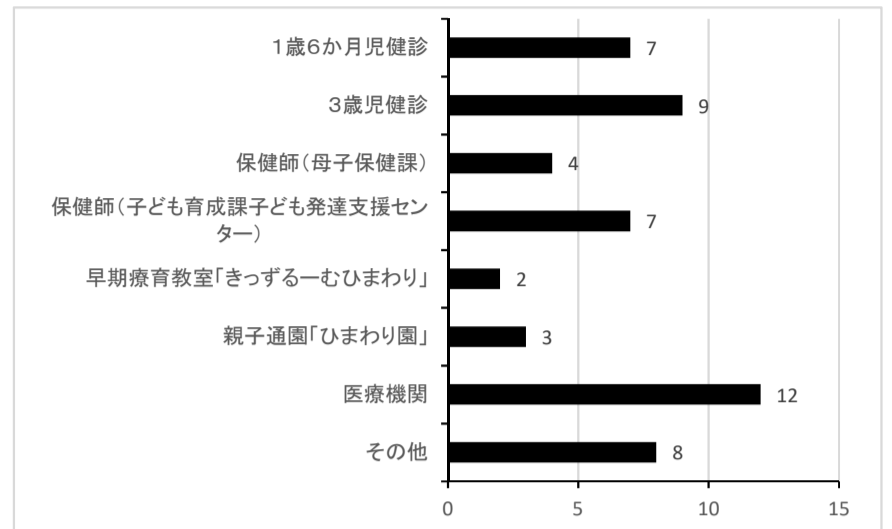
(内訳②)	回答あり	事業所数	回収率
児童発達支援のみ	3	3	100%
放課後等デイサービスのみのみ	30	37	81%
児童発達+放課後等デイ	17	21	81%
計	50	61	

【問1】(児童発達支援事業所のみ回答)

貴事業所の利用につながるきっかけの高知市の事業及び関係機関等(複数回答)

	件数	割合
1歳6か月児健診	7	35%
3歳児健診	9	45%
保健師(母子保健課)	4	20%
保健師(子ども育成課子ども発達支援センター)	7	35%
早期療育教室「きつずるーむひまわり」	2	10%
親子通園「ひまわり園」	3	15%
医療機関	12	60%
その他	8	40%

その他: 相談員、相談支援事業所、ランチ・保護者のつながり・紹介、保護者の口コミによる、相談支援員、相談支援事業所・はなまるキッズこうち・ハンディキャップヨガ、療育福祉センター主催(西部、東部の方)早期療育



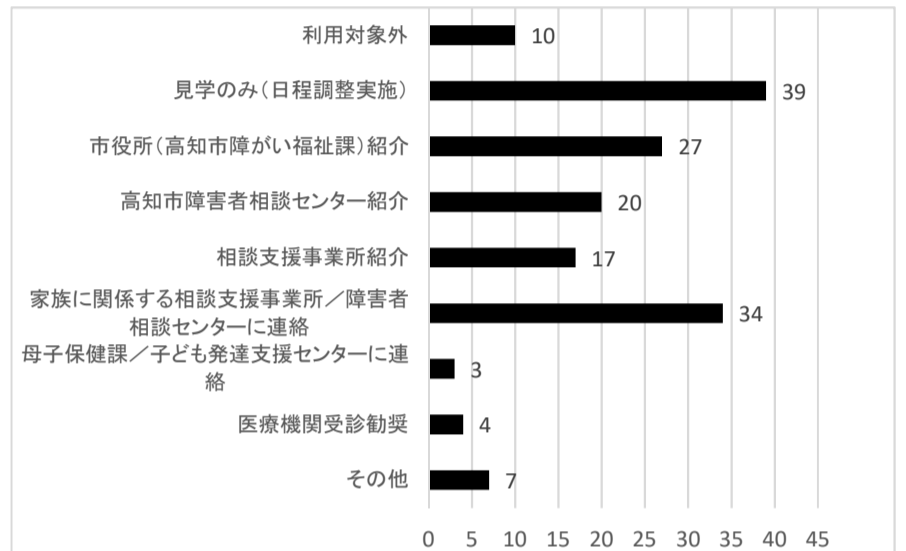
【問2】現在の貴事業所の利用待機児童

待機児童がいる	18	36%
待機児童はいない	32	64%
待機児童数合計	178人	

【問3】家族等の新規の連絡・相談・見学時の対応(複数回答) n=50

利用対象外	10	20%
見学のみ(日程調整実施)	39	78%
市役所(高知市障がい福祉課)紹介	27	54%
高知市障害者相談センター紹介	20	40%
相談支援事業所紹介	17	34%
家族に関係する相談支援事業所/障害者相談センターに連絡	34	68%
母子保健課/子ども発達支援センターに連絡	3	6%
医療機関受診勧奨	4	8%
その他	7	14%

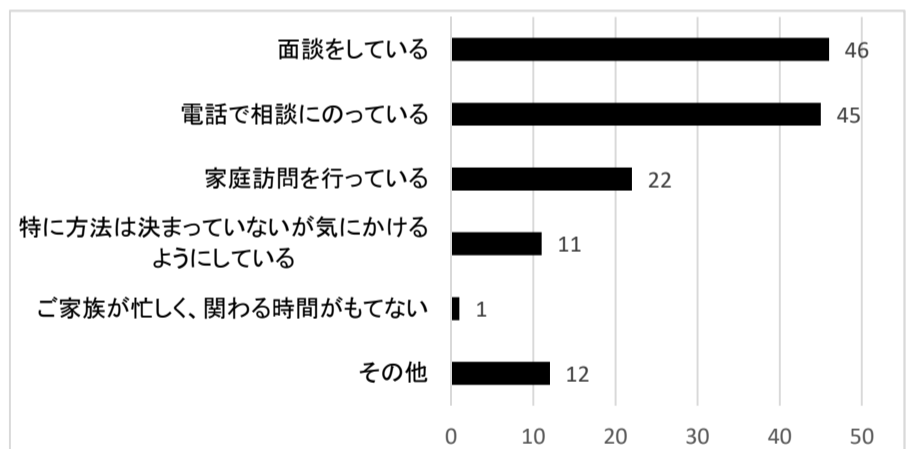
その他: 希望する曜日がいっぱい利用できないので他の事業所を紹介した/希望利用日の学校への送迎時間の調整を行った/本人・保護者の方々と一緒に弊所見学を促した/相談・見学がしばらくしない/見学後希望があり体験日を調整した/特別支援学校との連携/見学の間合せ時に子どもの支援の相談があれば子どもを取り巻く状況を把握しつつ保護者の思いを聞き取り、必要に応じては保護者の了承を得て、その家庭に関わっている関係機関へ連絡をとった/見学され、利用するかどうか連絡を待っている



【問4】家族支援の方法(複数回答) n=50

面談をしている	46	92%
電話で相談にのっている	45	90%
家庭訪問を行っている	22	44%
特に方法は決まっていないうが気にかけるようにしている	11	22%
ご家族が忙しく、関わる時間がもてない	1	2%
その他	12	24%

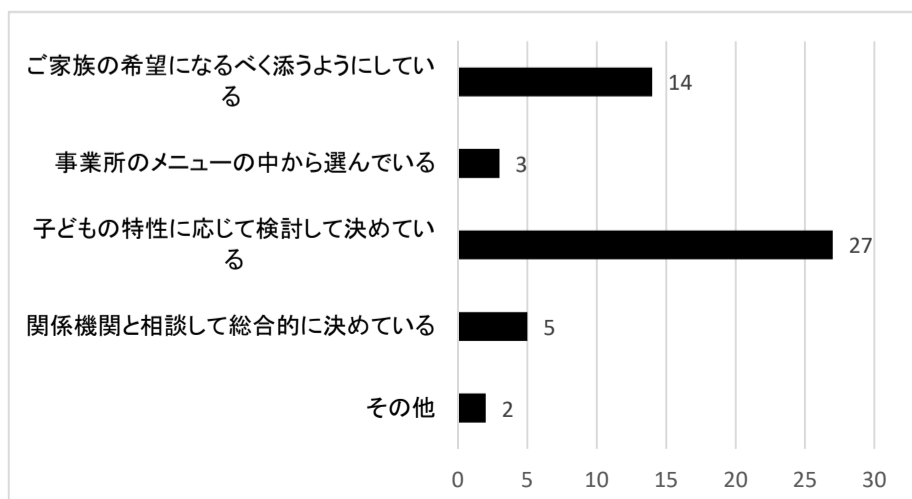
その他: ニーズ把握のためアセスメント表を記入してもらっている/保護者会を開く/親子通所の事業所である。急な相談事の場合は予約日以外の電話対応や面談をしている/送迎時の情報共有/メール24時間受付/保護者お迎え時や連絡帳などで情報交換している/ITツールを使用し連絡を取っている・送迎の際、気になる事等ないか話を聞く/養護学校と相談/送迎時に聴取、他機関と連携し必要な情報の共有を行い検討/子どもの送り迎えで来所した時に声をかけている/連絡帳や送迎時に子どもの状態について情報の共有を図ると共に、ご家族のニーズも聞き取っている/1は事業所に来ていただくときもあれば、事前に連絡して送迎時に行っています/親子通所のため、来所時に様子を確かめている



【問5】子どもの支援方法について、どのように決めることが多いか(1つのみ)

ご家族の希望になるべく添うようにしている	14	28%
事業所のメニューの中から選んでいる	3	6%
子どもの特性に応じて検討して決めている	27	54%
関係機関と相談して総合的に決めている	5	10%
その他	2	4%

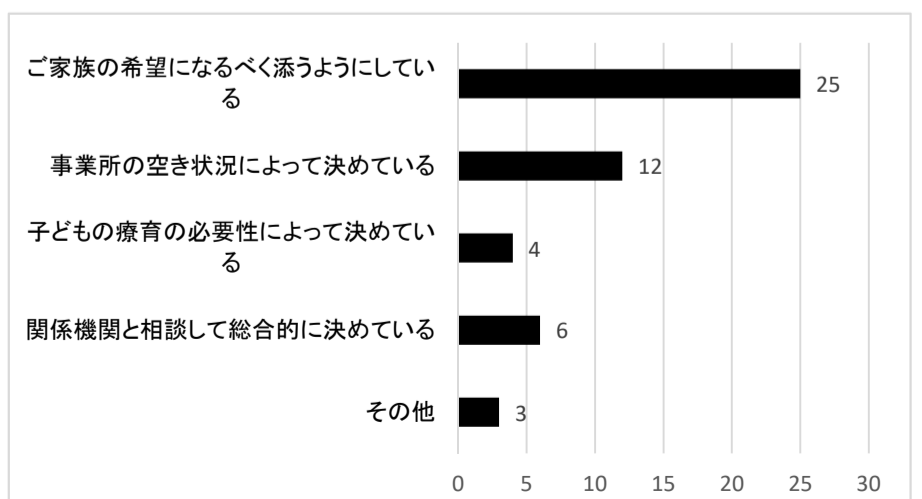
その他: 他職種での会議を行い検討している(家族の希望も踏まえて)/ご家族の希望をもとに、子どもの発達状態を踏まえて検討し決めている



【問6】利用頻度はどのように決めることが多いか(1つのみ)

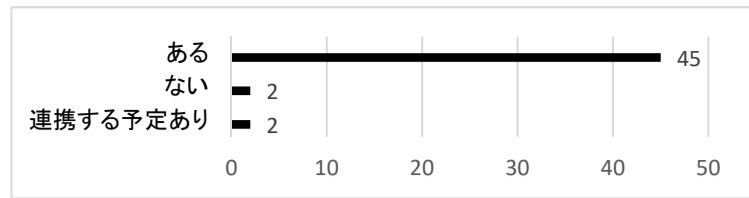
ご家族の希望になるべく添うようにしている	25	50%
事業所の空き状況によって決めている	12	24%
子どもの療育の必要性によって決めている	4	8%
関係機関と相談して総合的に決めている	6	12%
その他	3	6%

その他: 子どもの療育の必要性と事業所の空き状況、家族の希望といった点で総合的に検討し決めている/ご家族、子どもの要望をきき、相談支援専門員に相談・確認をして決める/基本的に週1回としている



【問7】療育支援の内容を保育所や幼稚園、学校等と連携することがあるか(1つのみ)

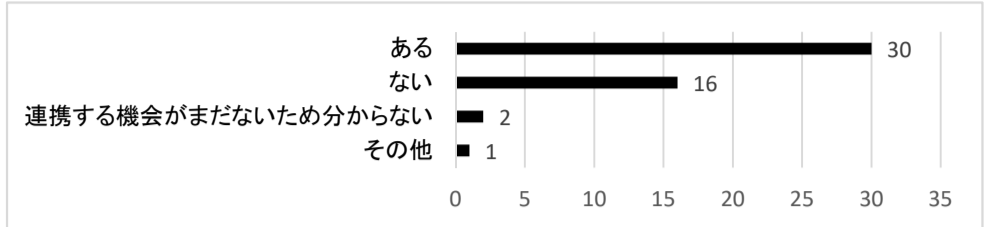
ある	45
ない	2
連携する予定あり	2



【問8】保育所や幼稚園、学校等に支援内容等を理解してもらいにくいと感じたことがあるか(1つのみ)

ある	30
ない	16
連携する機会がまだないため分からない	2
その他	1

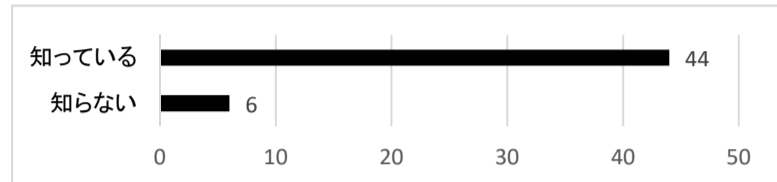
その他:学校の先生には伝えにくいと感じる



【問9】保育所や幼稚園、学校等と連携しやすくするために、工夫していること(自由記載) 別紙

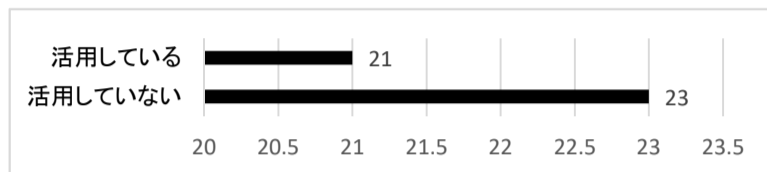
【問10】サポートファイルを知っているか (1つのみ)

知っている	44	88%
知らない	6	12%



●【問10】で「1. 知っている」と答えた事業所のみ回答
【問11】サポートファイルを活用しているか (1つのみ)

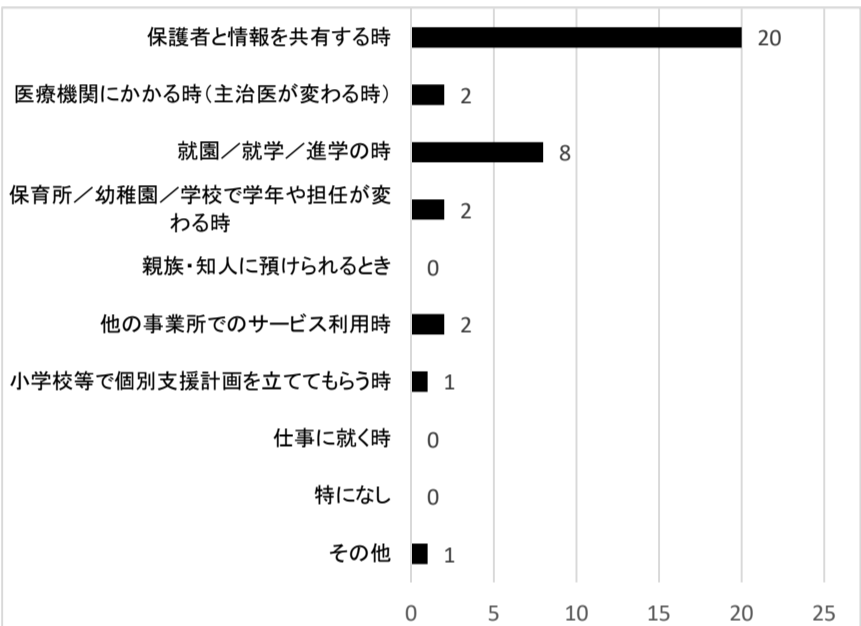
活用している	21	42%
活用していない	23	46%



【問11-A】活用して役に立ったと実感した場面はどんな時か(複数回答)
(その子どもが/その子どもの) 母数:21

保護者と情報を共有する時	20	95%
医療機関にかかる時(主治医が変わる時)	2	9%
就園/就学/進学の時	8	38%
保育所/幼稚園/学校で学年や担任が変わる時	2	10%
親族・知人に預けられるとき	0	0%
他の事業所でのサービス利用時	2	10%
小学校等で個別支援計画を立ててもらう時	1	5%
仕事に就く時	0	0%
特になし	0	0%
その他	1	5%

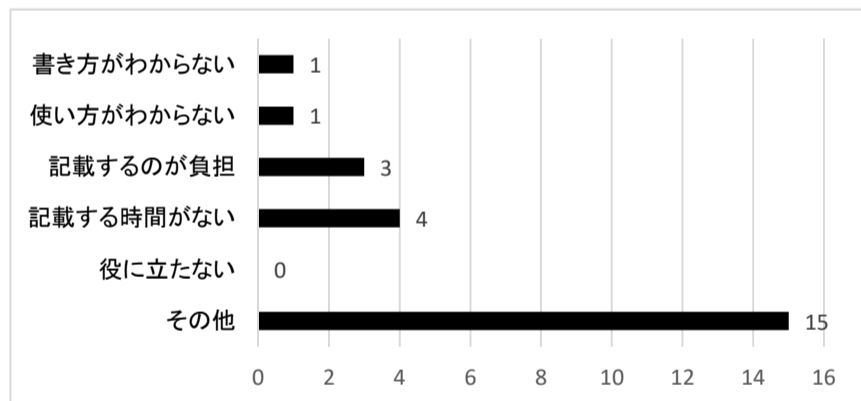
その他:新規利用時



【問11-B】活用していない理由(複数回答)

書き方がわからない	1	4%
使い方がわからない	1	4%
記載するのが負担	3	13%
記載する時間がない	4	17%
役に立たない	0	0%
その他	15	65%

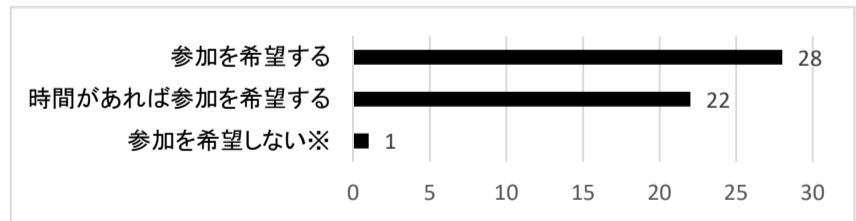
その他:あまり活用されていないと感じている/最近知ったため/保護者についても必要性を感じていない/持っている利用者がいない/保護者の依頼があった時のみ活用している/最近利用開始となった方が所持されていたが、まだ活用とはなっていない/持たれているかの把握ができていない/重症児、医ケア児に対して使いづらいと感じる/現場でPCで打ち込むなど省略可できればと考えてしまっって手を出せていない/事例、症例を伝えるのには枠が小さいと感じる/活用については保護者が判断している。(紹介はしている)/保護者の希望による/保護者からの依頼が現在ないため/保護者からの要望がない/ご家族がサポートファイルを知らない、もしくは持っていない/ご家族からの要望がない



【問12】基幹相談支援センター(高知市障がい福祉課内)、相談支援事業所、障害者相談センターと課題を共有する場があれば参加したいか(1つのみ)

参加を希望する	28	56%
時間があれば参加を希望する	22	44%
参加を希望しない※	1	2%

※問12のような機会をはもちたいが、ほぼ時間をとることができません。



【問13】ご要望・ご提案・ご意見

対応に困ったこと/うまくいった事例など、他の事業所と共有したい事柄(自由記載) 別紙

【問9】 保育所や幼稚園、学校等と連携しやすくするために、工夫していること(まとめ)

送迎時に先生とのコミュニケーションをはかったり、まめに連絡を取るなどして情報交換を行っている

パンフレットや広報誌を持参し事業所や事業内容の説明の機会をもつようにしている

保育所等訪問支援を活用している

関係機関と一緒に見学に行くようにしている

個別支援計画を共有している

支援会への参加を依頼するようにしている

事業所の見学をしてもらい、子どもの様子を見てもらう機会をつくっている

保護者とも意見交換の機会をもうけ、支援の方向性を決めている

先生方の行っている工夫のなかで「いい点」を見つけて伝えるようにしている

相談支援専門員に間に入ってもらっている

特別支援学校の生徒さんの体験実習や教職員の研修の受け入れを行っている

(その他感想)

連携の難しさを感じる

子どもの特性に応じた関わり方をしてもらえよう、先生方との関係性を作っていくことに苦労している

【問13】 ご要望・ご提案・ご意見／対応に困ったこと/うまくいった事例など、他の事業所と共有したい事柄(まとめ)

・サポートファイルを利用しているお父さんは情報共有がスムーズでありがたい

・利用している子どもの生活動作が少しずつ整ってきた、落ち着いてきた

・臨時休業期間中、マスク着用できなかった子どもが絵カードと声かけにより毎日マスクの着用ができるようになった

・子どもとのコミュニケーションがとれ発語の少ない子どもから自分の意志を言葉にして話してもらえた時、喜びを感じる

・子どもの行動の問題があるとき、関わっている大人の行動の中に問題がないかを考えている

・必要な子どもに必要な療育が行き届く地域社会になるよう頑張りたい

・障がいの理解がすすみ、障がいを受け入れる社会になるよう、子どもと関わっている

・特性が強く、対応の難しい子どもや、行動の問題のある場合は対応に苦慮している

・すぐに飽きてしまう子どもへの対応が難しい

・不登校の子どもへの支援について今後検討が必要

・多問題家族への支援が難しい

・保護者にどこまで伝えたらいいのか等、対応の仕方が難しいと感じる時がある

・教育・医療・福祉の連携は以前よりは改善したが、共通理解はまだまだ難しいと感じる

・教育・医療・福祉の関係者同士で、連携の成功・失敗例を共有したり、話し合いができる機会がほしい

・サービスが多様化しているため、他の事業所との情報共有をもっと行いたい

・支援者の質の向上が必要であり、研修が必要

・思春期の性教育等を学べる機会が欲しい

・サポートファイルとつながるノートが混同しやすい

・サポートファイルの作成に際して、保護者の自助努力に頼っているため、利用頻度が少ないと感じる

・サポートファイルをもっと上手く活用したい(進級、進学時等)

・行政にすすめられて、よく理解していない保護者が相談に来ることがあるが、支援体制の不備を感じる

・児童発達支援事業所と児童発達支援センターの役割の違いを関係機関が十分理解できていない

・子どもの発達にあわせた支援のモデルづくりができれば、保護者もどのような支援が受けられるかが明確になるのではないかと

・緊急時の連携等ができるようなシステムが必要

・強度行動障害の加算の認定が実際の状況と異なっている場合がある

・報酬が少なく、財政的に厳しい

・支援の内容に応じた報酬の算定を望む